

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389400045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 25年 2月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを重んじるケアを展開することによって利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらに、そのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、日当たり、眺望に優れている。事業所は、地域に根ざした高齢者ケアを行いたいという代表者の思いで設立されている。代表者と管理者は、一緒に介護に携わっており、職員とのコミュニケーションは良く取れている。利用者の重度化に伴い、外出が難しくなっているが、代表者は外出の大切さを認識しており、広い敷地内で外気に触れる機会をつくっている。職員は利用者にとって「生活のパートナー」として接し、四季折々の草花を楽しみ、親しめるケア、やすらぎの空間が感じられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームわたしの青空
(ユニット名)	東通りユニット
記入者(管理者)	
氏名	荒谷 留里
評価完了日	平成 25年 2月 4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践に活かすように心がけている。	
			(外部評価) 事業所の理念は法人代表者の信念である。入居者を「生活する主体」、スタッフを「生活のパートナー」として全職員で共有しており、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを具体的に表現した理念になっている。職員会議で再確認しながら理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校の特別支援学級の子どもたちが、学期ごとに歌や劇を見せに来てくれており、また本年度からは地域の保育所とも交流の機会をもてるようになった。	
			(外部評価) 地域の保育園児や小学生の訪問を受け、歌や踊りの発表などの交流をしている。代表者は、地域の認知症高齢者介護の発信地を目指し、認知症の理解を深めるため地域住民に参加を呼びかけ勉強会を行うなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 本年度から、自元自治会の協力を得て「肩のこらない認知症あれこれ座談会」を開催し、認知症の人の理解や支援の方法等について、地域の人々に向けた情報提供に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していく ことに努めているため、利用者家族等からは、いつも ホームを励まし、後押ししてくださるスタンスでの発 言が満ち溢れている。	参加者が少なく固定化しているため、地域住民が参加 できる行事等と会議を合わせて開催し、多くの参加者 から活発な意見をもらえるよう今後の取組みに期待し たい。また、職員の参加についても、地域との交流や 学習のよい機会となるため、検討を願いたい。会議録 は、参加者が分かるように記録しておくことが望まし い。
			(外部評価) 会議は、定期的を開催しており、事業所の現状や行 事、課題等を報告し、時には利用者提供している食 事の試食会を行うなど工夫をしている。参加者に意見 を求め、ケアにつなげるよう努めている。町営団地の区 長が事業所の良き協力者になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で事業所の実情等を積極的に伝えたり、 必要に応じて相談に伺い、支援をいただいたりするな ど、良好な連携の維持ができています。	参加者が少なく固定化しているため、地域住民が参加 できる行事等と会議を合わせて開催し、多くの参加者 から活発な意見をもらえるよう今後の取組みに期待し たい。また、職員の参加についても、地域との交流や 学習のよい機会となるため、検討を願いたい。会議録 は、参加者が分かるように記録しておくことが望まし い。
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっており、利用者の生活 課題等を相談している。介護認定更新時には、利用者 の暮らしぶりやニーズを伝える等連携を深めている。 相談が気軽にできる良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めてお り、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアにつ いての認識の徹底に取り組んでいる。	参加者が少なく固定化しているため、地域住民が参加 できる行事等と会議を合わせて開催し、多くの参加者 から活発な意見をもらえるよう今後の取組みに期待し たい。また、職員の参加についても、地域との交流や 学習のよい機会となるため、検討を願いたい。会議録 は、参加者が分かるように記録しておくことが望まし い。
			(外部評価) 「身体拘束の排除の理念・方針」を整備し、職員全員 が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り 組んでいる。利用者一人ひとりの状態にあった対応 は、家族に伝えて支援をしている。また、慣れからく る言葉の拘束は職員間で注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や平素の来訪時に、意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを伝える機会を設けている。家族の訪問時に話し合える環境をつくっている。毎月「わたしの青空通信」を発行し、事業所の様子や利用者の生活状況を報告している。家族からの意見や要望には、早急に対応するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。 (外部評価) 代表者と管理者は介護に携わっており、職員とコミュニケーションが良く取れている。職員は業務の中で気がついたことや思いを管理者に伝えることができる環境が整っている。また、資格取得を目指す職員もあり、事業所を一緒に良くするように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等への派遣は、職員からの希望がなく、ほとんどできていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所開設時から伊予市の「グループホーム土香里」と親密な交流があり、勉強会をはじめ各種行事の相互訪問を継続し、成果をサービスの質の向上に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、安心して不安や要望を出していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出し、いくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中に、このことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。 (外部評価) 三味線や編み物の先生をしていた利用者に教え子が訪問したり、家族の訪問が多くあったりして、その人らしい生活習慣を維持できるよう支援している。希望に応じて、生家のある地域やお墓参りに出かけていたが、重度化等により利用者からの希望がなくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。必要な場合は、適切な支援を行うように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるように努力している。 (外部評価) 職員は日頃から利用者に関わる時間を大切にし、居室やリビングに利用者が一人である時などに、利用者の思いや希望を聞き把握している。介護記録に記入して、カンファレンス等で情報を共有している。思いを表現することが難しい利用者には、日常の会話やしぐさ等から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人 の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌 憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映さ せている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、担 当職員を中心に管理者と計画作成担当者が計画の原案 を作成している。カンファレンスで全職員が検討して 介護計画を立て、家族に訪問時や郵送で確認してい る。月1回のモニタリングで状況確認するとともに、 現状に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で 情報を共有している。カンファレンスの際には、こう いったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直し に役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、 地元高校吹奏楽部OGにお願いし、楽器を演奏してい ただいたりするなど、地域の人材活用に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、 かかりつけ医への連絡はこまめに行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診 できるよう、家族の協力を得ながら支援している。協 力医は定期的な往診と急変時の対応をしてくれ、健康 管理には安心感がある。また、必要に応じて専門医と 連携を取ることでもでき、適切な医療を受けられる体制 ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員 に伝えて相談するようにしており、常に適切な対応が とれるように心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むよう に、普段から病院の医師・看護師に対して報告・連 絡・相談をこまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、 主治医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づ いた取り組みを行っている。	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における 介護の考え方を説明している。利用者が重度化した場 合は、家族や医療機関と連携を図り最期の時をどのよ うに迎えたいかを一緒に考え対応している。運営推進 会議では事業所の看取り介護について話し合いを行っ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 従来の火災対策に加えて、本年度、地震対応マニュアルを策定した。訓練の実施については、質・量ともにレベルアップを図りたい。 (外部評価) 年2回、昼夜を想定した防災避難訓練を実施している。「地震対応マニュアル」の整備や、知識向上に努めている。災害時に備え食料や飲料水等を備蓄している。運営推進会議では、災害時の地域の避難場所として活用できるように話し合いをしている。	事業所として防災管理体制を強化し「避難・設備・見識」を職員と一緒に深めることを望みたい。地域住民の参加協力を得て、一緒に避難訓練を実施することが望まれ、地域住民の応援体制構築のためこれからも地道にお願いし、連携を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに合った対応に心がけている。楽しく、不安なくいつも笑顔で過ごしてもらえるよう、気持ちに寄り添い介護に取り組んでいる。入浴やトイレの支援時には、声かけに配慮しプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容を利用しカットやパーマを行って快適に過ごしていただけるようにしている。また、女性利用者には、化粧やマニキュアを希望に応じて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒に行っていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで、会話しながら楽しく食事をしている。嚥下困難な利用者には職員が横に座り、ゆっくり声かけをして支援している。利用者の状態に合わせて、お粥やキザミ食にして食べやすい工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしていただいている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者のパターンを把握して、利用者の身体状況に合った排泄支援をしている。オムツ、パット、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はできる限りトイレで排泄ができるように努めている。さりげない声かけや誘導でスムーズに排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じた入浴支援をしている。毎日入浴することもでき、ほとんどの方に入浴を楽しんでもらっている。介助が必要な利用者には、職員が2名体制で安心安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短に違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 年間の外出計画を立てて、外出支援をしている。利用者の重度化に伴い、外出が困難になっているが、代表者は外出の大切さを認識しており、広い敷地内で外気浴をしたり、利用者の希望により、買い物に出かけたりするなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にいただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入り口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。	
			(外部評価) 事業所全体が広々としており、清潔感がある。天窓がある高い天井の居間は明るく開放的で、ソファや畳など自由にくつろぐことができるよう工夫をしている。 利用者と職員と一緒に作った作品が飾っており、日頃口ずさむ歌詞を貼ってあるなど、心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。	
			(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けてある。自宅から使い慣れた寝具、鏡台、衣装ケース、仏壇などを持ち込むことができる。家族との写真や思い出の品を飾るなど、自分だけの時間を大切に、これまでの生活スタイルが継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389400045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 25年 2月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを重んじるケアを展開することによって利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらに、そのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、日当たり、眺望に優れている。事業所は、地域に根ざした高齢者ケアを行いたいという代表者の思いで設立されている。代表者と管理者は、一緒に介護に携わっており、職員とのコミュニケーションは良く取れている。利用者の重度化に伴い、外出が難しくなっているが、代表者は外出の大切さを認識しており、広い敷地内で外気に触れる機会をつくっている。職員は利用者にとって「生活のパートナー」として接し、四季折々の草花を楽しみ、親しめるケア、やすらぎの空間が感じられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 西通りユニット

記入者(管理者)

氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 25年 2月 4日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践に活かすように心がけている。	
			(外部評価) 事業所の理念は法人代表者の信念である。入居者を「生活する主体」、スタッフを「生活のパートナー」として全職員で共有しており、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを具体的に表現した理念になっている。職員会議で再確認しながら理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校の特別支援学級の子どもたちが、学期ごとに歌や劇を見せに来てくれており、また本年度からは地域の保育所とも交流の機会をもてるようになった。	
			(外部評価) 地域の保育園児や小学生の訪問を受け、歌や踊りの発表などの交流をしている。代表者は、地域の認知症高齢者介護の発信地を目指し、認知症の理解を深めるため地域住民に参加を呼びかけ勉強会を行うなど、地域との交流に努めている。	事業所は、日常的に十分な交流ができていないと実感しており、運営推進会議を活用したり、事業所として地域に貢献したりする活動を通して、地域住民が気軽に立ち寄れる間柄になれるような取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 本年度から、自元自治会の協力を得て「肩のこらない認知症あれこれ座談会」を開催し、認知症の人の理解や支援の方法等について、地域の人々に向けた情報提供に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していくことに努めているため、利用者家族等からは、いつもホームを励まし、後押ししてくださるスタンスでの発言が満ち溢れている。	参加者が少なく固定化しているため、地域住民が参加できる行事等と会議を合わせて開催し、多くの参加者から活発な意見をもらえるよう今後の取組みに期待したい。また、職員の参加についても、地域との交流や学習のよい機会となるため、検討を願いたい。会議録は、参加者が分かるように記録しておくことが望ましい。
			(外部評価) 会議は、定期的を開催しており、事業所の現状や行事、課題等を報告し、時には利用者に提供している食事の試食会行うなど工夫をしている。参加者に意見を求め、ケアにつなげるよう努めている。町営団地の区長が事業所の良き協力者になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で事業所の実情等を積極的に伝えたり、必要に応じて相談に伺い、支援をいただいたりするなど、良好な連携の維持ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっており、利用者の生活課題等を相談している。介護認定更新時には、利用者の暮らしぶりやニーズを伝える等連携を深めている。相談が気軽にできる良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束などの排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアについての認識の徹底に取り組んでいる。	
			(外部評価) 「身体拘束の排除の理念・方針」を整備し、職員全員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの状態にあった対応は、家族に伝えて支援をしている。また、慣れからくる言葉の拘束は職員間で注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や平素の来訪時に、意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを伝える機会を設けている。家族の訪問時に話し合える環境をつくっている。毎月「わたしの青空通信」を発行し、事業所の様子や利用者の生活状況を報告している。家族からの意見や要望には、早急に対応するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。 (外部評価) 代表者と管理者は介護に携わっており、職員とコミュニケーションが良く取れている。職員は業務の中で気がついたことや思いを管理者に伝えることができる環境が整っている。また、資格取得を目指す職員もあり、事業所を一緒に良くするように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーにのカウンセリングが受けられる制度もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等への派遣は、職員からの希望がなく、ほとんどできていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所開設時から伊予市の「グループホーム土香里」と親密な交流があり、勉強会をはじめ各種行事の相互訪問を継続し、成果をサービスの質の向上に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、安心して不安や要望を出していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出し、いくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中に、このことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。 (外部評価) 三味線や編み物の先生をしていた利用者に教え子が訪問したり、家族の訪問が多くあったりして、その人らしい生活習慣を維持できるよう支援している。希望に応じて、生家のある地域やお墓参りに出かけていたが、重度化等により利用者からの希望がなくなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。必要な場合は、適切な支援を行うように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるように努力している。 (外部評価) 職員は日頃から利用者に関わる時間を大切にし、居室やリビングに利用者が一人である時などに、利用者の思いや希望を聞き把握している。介護記録に記入して、カンファレンス等で情報を共有している。思いを表現することが難しい利用者には、日常の会話やしぐさ等から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人 の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌 憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映さ せている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、担 当職員を中心に管理者と計画作成担当者が計画の原案 を作成している。カンファレンスで全職員が検討して 介護計画を立て、家族に訪問時や郵送で確認してい る。月1回のモニタリングで状況確認するとともに、 現状に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で 情報を共有している。カンファレンスの際には、こう いったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直し に役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、 地元高校吹奏楽部OGにお願いし、楽器を演奏してい ただいたりするなど、地域の人材活用に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、 かかりつけ医への連絡はこまめに行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診 できるよう、家族の協力を得ながら支援している。協 力医は定期的な往診と急変時の対応をしてくれ、健康 管理には安心感がある。また、必要に応じて専門医と 連携を取ることでもでき、適切な医療を受けられる体制 ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員 に伝えて相談するようにしており、常に適切な対応が とれるように心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むよう に、普段から病院の医師・看護師に対して報告・連 絡・相談をこまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、 主治医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づ いた取り組みを行っている。	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における 介護の考え方を説明している。利用者が重度化した場 合は、家族や医療機関と連携を図り最期の時をどのよ うに迎えたいかを一緒に考え対応している。運営推進 会議では事業所の看取り介護について話し合いを行っ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 従来の火災対策に加えて、本年度、地震対応マニュアルを策定した。訓練の実施については、質・量ともにレベルアップを図りたい。	
			(外部評価) 年2回、昼夜を想定した防災避難訓練を実施している。「地震対応マニュアル」の整備や、知識向上に努めている。災害時に備え食料や飲料水等を備蓄している。運営推進会議では、災害時の地域の避難場所として活用できるように話し合いをしている。	事業所として防災管理体制を強化し「避難・設備・見識」を職員と一緒に深めることを望みたい。地域住民の参加協力を得て、一緒に避難訓練を実施することが望まれ、地域住民の応援体制構築のためこれからも地道にお願いし、連携を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに合った対応に心がけている。楽しく、不安なくいつも笑顔で過ごしてもらえるよう、気持ちに寄り添い介護に取り組んでいる。入浴やトイレの支援時には、声かけに配慮しプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容を利用しカットやパーマを行って快適に過ごしていただけるようにしている。また、女性利用者には、化粧やマニキュアを希望に応じて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒に行っていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで、会話しながら楽しく食事をしている。嚥下困難な利用者には職員が横に座り、ゆっくり声かけをして支援している。利用者の状態に合わせて、お粥やキザミ食にして食べやすい工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようにしていただいている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者のパターンを把握して、利用者の身体状況に合った排泄支援をしている。オムツ、パット、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はできる限りトイレで排泄ができるように努めている。さりげない声かけや誘導でスムーズに排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じた入浴支援をしている。毎日入浴することもでき、ほとんどの方に入浴を楽しんでもらっている。介助が必要な利用者には、職員が2名体制で安心安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短に違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 年間の外出計画を立てて、外出支援をしている。利用者の重度化に伴い、外出が困難になっているが、代表者は外出の大切さを認識しており、広い敷地内で外気浴をしたり、利用者の希望により、買い物に出かけたりするなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にいただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入り口ドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。	
			(外部評価) 事業所全体が広々としており、清潔感がある。天窓がある高い天井の居間は明るく開放的で、ソファや畳など自由にくつろぐことができるよう工夫をしている。 利用者と職員と一緒に作った作品が飾っており、日頃口ずさむ歌詞を貼ってあるなど、心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。	
			(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けてある。自宅から使い慣れた寝具、鏡台、衣装ケース、仏壇などを持ち込むことができる。家族との写真や思い出の品を飾るなど、自分だけの時間を大切に、これまでの生活スタイルが継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「できること」「わかること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	